

童心恐るべし



野口明

言は一つも無いので、私にはできないと答えた後私の室には顔を見せなくなつた」と。私も寡聞にして此の点何も知らないが、余計なことは思つたが座興の思いつきで「童心は天真爛漫、衆生本来仏の典型であり、不善不安は大人の年配になつてからのこと故、幼児に説法は無用と思う」と言つてみた。大笑いになつて、その場はそれで済んだが、私は此の問題について、何か言い足りないようで心残りがした。

近頃私は姻戚筋から頼まれて、幼稚園を經營する学校法人に関係し、時々その途の人と会談する機会を持つようになった。以前お茶の水に居た時にも、又その後私立の保育系の短大を預かった時にも幼稚園に関係があつた。然し現場での実務に触れたことは無く、責任だけ負わされて、遠足等で無事解散の報告で安堵したり、行事にはPTAの方や、園児に対して一言する位のことはした。そして何時も園児への話の内容や用語には不安を覚えるのを常とした。先生方は結構難しいことを言われても、それが通ずるらしく、三つ子の魂の感覺には案外鋭いものがあるように思われる。

三

私は今から七十年前に番町小学校の幼稚園に一年間位通つたので、その頃の幼稚園のこととも多少記憶にある。小学校時代は三年から暁星学校に転じ、中学も其処を卒業したが、小学校時代は寄宿舎に入れられた。フランス系のカトリックのミッション校ながら、信仰への勧説は無きに等しく寛大であった。中学は大と中、小学は小と、全体が三グループに分かれ、運動場も自習室も寝室も別々で、各組の監督の先生は、授業時間以外は、終

二

過日学校法人の関係者と会食した時、一老園長が面白いことを言った。「孫を連れて園によく来る老婦人が、園長室に来て、仏教的教育をと要望されたが、紳士の教説の中には幼児教育の大

日受け持ちの寄宿生と生活と共にされた。先生方は皆独身で、骨を日本の土に埋める覚悟なので、日本を祖国の如く、日本の子どもをよく可愛がられた。小学組の寝室の二階は御堂で、毎朝勤行の讃美歌のオルガンの奏楽で夢を覚まされた。先生方への追慕、カトリックへの親しみは今も変わらないが、信仰に入ることは遂にできなかつた。こういうきめこまかい感化は家庭教育や、社会教育の方に機縁が多そうである。殊に学生過剰の今のマスプロ学校では一層難しい。

四

キリスト教では、アダムとエバがエデンの園で禁断の知恵の実を食して神意に反したこと、原罪とする。人類の脳の優秀性が、幸福と同時に不幸や罪悪の原因であると言う見方は面白い。仏教では人生は苦であり、苦は因果因縁の集結であり、その原点は無明即ち無自覺の煩惱に在りとする。キリスト教では原罪を救うために神智を持つてクリストが下されたと言い、仏教では煩惱を解脱する仏智即ち般若の智で開眼せよと言う。種々の言葉や説明の仕方もあるが、要するに知に二種があり、生物が生活するための知識と、その知識を統制して生命を運営

するための智恵がある。智は知と白との合字で明白な知、即ち明智乃至叡智と言ふ意である由。私は前者を生活知、後者を生命智と呼ぶこともある。共に大切な機能で、両者の健全な発達と均衡とに人類の道標がある。人の知能には両刃があり、繁栄と共に滅亡の因を秘めている。過去に於て地球を征服した生物は、皆その長所のために滅亡したとさえ言われる。

五

先頃久しぶりに円覚寺の法話で感銘深く聞いた話がある。「アインシュタイン曰く、人間は特定の宗教の信者たるを要しないが、宗教の人間でなければならないと。その宗教的とは、生命の問題に深い関心を持つことである」と。禪で只管打坐、即ち難解な仏教哲理など考えないで、ただ無念に呼吸三昧の静坐を貴ぶ風がある。私はこの頃、その人が宗教の人間であるならば、此の三昧の中に天地の生命に触れる契機が熟するだらうと思うようになつた。私は旧制高等学校の校長時代に純真な青年から種々教えられたように思う。まして青年より神や仏に近い幼児からは、もっと新鮮な啓示を貰い得るようと思われるがどうであろうか。